

令和元年度学校評価 自己評価実施報告

栃木県立小山高等学校

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的かつ根気強く学習に取り組み、希望する進路の実現に向けて努力できる生徒を育成する学校 ○ 学習や部活動等に意欲的に取り組み、文武両道の実践をとおして自己の能力を最大限発揮できる生徒を育成する学校 ○ 学校生活全体をとおして、新しい時代を切り拓き、社会のリーダーとして活躍できる生徒を育成する学校
--------	---

本年度努力点	<ol style="list-style-type: none"> 1 【進路実現に向けた連携教科】 生徒のよりよい進路実現に向けた進路指導部・学習指導部・各学年の密接な連携 2 【生徒指導・生徒支援体制づくり】 多様化する生徒に対し、早期に、きめ細かく、組織的に指導・支援できる体制づくり 3 【文武両道の推進】 学習と特別活動（部活動等）が互いに相乗効果をもたらす計画の策定と実践 4 【伝統の継承と発展】 100年の歴史と伝統を受け継ぐとともに、学校課題の解決に向けた新たな試み
--------	---

	今年度の重点目標と努力点	今年度の取り組み	自己評価	今後の改善方策等
目 標 ①	学力の向上と進路実現 1. 新学習指導要領の実施を踏まえた、学びの質や深まりを重視した学習・指導方法の改善（学習指導部） 2. 生徒の能力・適性に合った進路指導の推進及び進路指導に役立つ情報収集と資料作成（進路指導部） 3. 数理科学科の教育活動の充実（理数教育推進部）	1. 知・徳・体にわたる「生きる力」を育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を喚起させる、「総合的な探究の時間」の進路探究プログラムの企画作成を図った。 2. アクティブ・ラーニング型キャリア教育について、Society5.0等これからの社会に関する理解を深め、自己の在り方生き方を主体的に考えさせる内容に改善し展開した。また、志望校検討については、資料のさらなる充実や会議の進め方等を改善して実施した。 3. 大学との連携により課題研究の取り組みを深化させた。	A	1. 大学入試の多様化する選抜方法に対応した、より効果的な指導法の研究と実践 2. 学習指導部と連携した、来年度の2年生対象の「総合的な探究の時間」に係る大学と連携した進路探究プログラム及び評価の研究と実践 3. 理数教育のさらなる充実
目 標 ②	「知・徳・体」のバランスのとれた生徒の育成 1. 学校行事や生徒会活動・部活動の内容の充実、生徒の積極的な参加の奨励（特活指導部） 2. 特別支援方策の検討と支援方法の円滑な推進（生徒指導部） 3. 心身の健康の保持増進と自己の健康管理の徹底（健康指導部）	1. 体育祭、球技大会や小文化祭による文化部発表の充実等によって、学校行事の活性化や文化部の振興を図った。 2. 様々な配慮を必要とする生徒の増加に対応し、外部機関と連携しながら、特別支援・いじめ不登校対策委員会等で個々の生徒に応じた支援方法等を検討するとともに、教職員への周知徹底を図った。 3. 保健室を訪れる生徒の様子から、養護教諭・教育相談係・スクールカウンセラー等の連携により、心身に問題を抱える生徒の早期発見・早期対応に努めた。	B	1. 学校行事の充実を図るための、行事の開催時期や内容等の見直し 2. 多様化する生徒へのきめ細やかな指導と支援の充実、家庭との連携、組織体制の確立 3. 教育相談と連携した、心の問題に関する様々な事柄への柔軟な対応
目 標 ③	保護者や地域に信頼される選ばれる小山高校の構築 1. 本校のこれからのグランドデザインを具現化する教育課程の編成（教務部） 2. 保護者から支持されるPTA活動の在り方の検討（生涯学習部）	1. 新教育課程に関する情報の収集と交換を継続的に行った。 2. PTA支部球技大会の持ち方を検討し、今年度は自由参加とした。	B	1. グランドデザインの検討・策定と令和4年度教育課程案の作成 2. 様々な教育活動における地域との連携の強化

自己評価基準 A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力が必要